

事業所名 たまみずき清瀬

支援プログラム

作成日

令和7 年

3 月

3 日

法人(事業所)理念		「あらゆる個性が花ひらく社会をつくる。 そのための架け橋となる」						
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> • 個々の子どもの姿を受け止め、個別支援計画に沿った支援の提供を行う • 将来の自立や地域生活を据え、積極的に地域との交流を図る。 • 保護者支援も大切に考え、状況に応じた適切な支援の提供を行う。 • 各種研修に参加し、支援の質の向上を目指す。 • 定期的なミーティングを開催し、情報共有、ケース検討などを行う。 						
営業時間		12 時	0 分	18 時	0 分	まで	送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> • おやつを通して食事の楽しさを感じ、他児との食事を通して挑戦する力などを育みます。 • 身辺自立や身支度など、自分でできることを増やすように支援します。 • 必要な利用児には排泄のトレーニングを行い、自立を促します。 • 時間やお金、利用時の目標によってパソコンなどの使い方や危険性を学び、スキルを身につけていきます。 						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> • 粗大運動: 運動や協調運動のために腕や足を使う活動を取り入れます • 微細運動: 物を操作するために手と指を使うような活動を行います(製作など) • アセスメントをもとに本人の持っている力(感覚や本人の特性)を活かして利用児の出来ることを増やします 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> • 視覚、聴覚、触覚などの本人の得意な情報を用いたり、認知の発達と行動の習得を目指します。 そのためにスケジュールを提示や絵カードの使用を行います • 利用児の特性を活かして空間・時間、数等の概念形成の習得 • 行動障害への予防及び対応として、感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行います • 日常動作のトレーニングの時間を設けて、利用児の特性に合わせた支援を行います。 その中で出来た自信や誰にだって苦手がある事を身につけていきます 						
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> • 受容言語: 利用児が職員やお友だちの意見や話をどのように聞き、注意を払い、理解しているかを見極め、促しを行います • 表出言語: 利用児が何を話し、情報を集めて提供するためにどのような単語や文を発することが出来るかを見極め、促しを行います • 読み書き: 利用児が文の組み立て方について何を理解し、読み書きに繋げていきます。 子どもの興味や特性を考慮し本人が楽しく音読など出来るような支援を行います • ヘルプサイン: 自分の困り感や考えていることをマカトンサイン・絵カード等を用いて他者に伝える力を育みます 						
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> • 職員や他児との関わりを通して人間関係を構築します。 また、人との距離感を学ぶ機会を設けます。 • 事業所スタッフと関り人間関係を構築する。事業所スタッフと継続的に関わることにより、信頼関係を継続し安心感を得る。 • 他の利用者との関りを通し、同世代以外の年齢の利用との関りの中で、他者の存在を知る機会を得る。 • 集団活動を通して協力して一つのことを成し遂げる感覚を得る。集団活動の中で他者と同じ体験を共有し一体感を得る。 • 個人の発達段階に合った介入を行い成長発達を促す。 						
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> • 日常生活での困りごとや特性に関すること、兄弟間の課題や社会資源など、送迎や電話、面談を通して情報の共有を図り、必要時は助言を行います • 講演会を行い、特性の理解や将来について学べる機会を提供します 						
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> • 他事業所や学校と情報の共有や連携、必要時はケース会議を開催します • 地域の自立支援協議会に参加します 						
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> • 季節の行事 • 近隣の施設や公園へのお出かけ 						
移行支援		<ul style="list-style-type: none"> • 小学校から中学校、中学校から高校など、利用児のライフステージを見据え、次のステージと情報共有の場を設定します • 地域と繋がりがながら日常生活をおくるため、地域住民との方との交流を図ります 						
職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> • 月に1回、職員の研修の機会を作っています • 外部研修にも参加し、スキルアップを図ります 						